



人権教育だより

京丹後市立大宮中学校

令和3年 11月 10日

No.8



2 学期 人権学習



多文化共生社会の 実現のために

今年度の人権学習は、全学年「多文化共生社会」をテーマに学習をしています。

現在の日本に住む（住民登録のある）外国人は 200 万人以上です。ここ京丹後市でも、約 500 人（令和元年）の外国人が住んでおられます。今後、新型コロナウイルス感染症の影響が収まると、グローバル化が一層進み、さらにたくさんの外国人と共に生活していく社会が訪れます。当然のことながら、国や民族が違えば、言葉や生活様式・習慣、考え方など違ってきます。

「違い」を“知らない”“理解していない”ことから「偏見」が生まれ、「差別」につながってしまうという事態を引き起こしかねません。他の国の人や民族への偏見をなくし、違いを認め、尊重し合いながら、誰もが住みよい社会を創っていくために必要なことを考えました。

今回は 2 年生の授業の様子と感想を紹介します。



「ひょうたん島問題」～移民問題をロールプレイを通して考える～

☆一度自分たちの言い分や考えを横において、人と人として向き合って気持ちを伝え合うというのが、理解し合って生きていく上で重要だと思います。

（1 組 男子）

☆実際にこの国でも起こりそうな問題で、ロールプレイで立場が違うだけでこんなにぶつかってしまうのかと、現実をみているようでこわかったです。

ひょうたん島に移住してきたカチコチ島と

【左面に続く】



2-1

＜ロールプレイ「あいさつがわからない」＞

パラダイス島の人々が、ひょうたん島のことをもっと知っておけば良かったのかなと思いました。また、ひょうたん島の人々も移住してきた2つの国の人々のことを、温かく見守られるような存在になってほしいです。国の文化は、とても大きなものにも影響を与えてしまうことをロールプレイで知りました。 (2組 女子)



2-2

☆異なった文化の人々と共生していくのは難しいことだけど

お互いの文化を尊重し合うことが何よりも大事だと

《ロールプレイ「カーニバルがやってきた」》

思った。そういった中で、「あっ！こういった文化があるんだ！」と気づくことができ、さらにその文化を尊重するという繰り返しによって、多文化共生社会ができていくのではないかなと思う。

また、異なった国の人同士だと言葉が通じないのは、当たり前のことかもしれないけど、そういった中で、なんとかコミュニケーションを取ろうとするのは、人の素晴らしさでもあり、強みでもあると思った。僕は外国人とコミュニケーションを取った経験があまりないけれど、もしこれからこういう社会で生きていく中で外国の人と出会ったら、第一に相手の文化や国の言語を尊重する、そしてコミュニケーションを取る。日々の生活で、このような一連の流れが当たり前のようにできることが、多文化共生社会の実現につながっていくと強く思う。

(3組 男子)

2-3



DVD「コンペイトウの来た道」を観て

☆外国人だからと差別があることは、多くの人が思っていることだと思います。しかし、だからといってほっとくわけにはいきません。だからこそ、自分から向き合い、お互いを理解することが大切なんだと気づきました。外国人だからではなく、同じ人として平等に接することが一番だなと思いました。そして、相手の悩みを私たちも手伝って解決していくことが、よりつながりを強めると思うので、相手の考えなどを共有したいと思います。 (1組 女子)

《ロールプレイ「カーニバルがやってきた」》

外国人だからではなく、同じ人として平等に接することが一番だなと思いました。そして、相手の悩みを私たちも手伝って解決していくことが、よりつながりを強めると思うので、相手の考えなどを共有したいと思います。 (1組 女子)



12月2日(木) 人権のつどい～人権意見発表会&講演会

金 慶子(キム キョンジャ)さんの講演です



2-1



2-2



2-3